

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年10月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0572609220
法人名	有限会社生保内福祉会
事業所名	グループホーム 優優
所在地	仙北市田沢湖生保内字街道ノ上36番地8 (電話)0187-43-3077
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年9月29日

【情報提供票より】(平成21年8月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年2月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	8人 常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.075人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,500円	その他の経費(月額)	ベッド等利用料500円 他実費	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		850円	

(4) 利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2		11名	
要介護3	2名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 86歳	最低	80歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立田沢湖病院 市立角館総合病院 高橋医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、スタッフとの個別面談に取り組んだり、職員会議やケアカンファレンスにも積極的に参加するなど、人材育成に熱心に取り組んでいる。ホームは商店街の路地に入ったところに位置し、近隣への買い物や散歩、理美容室の活用等により、地域住民と顔馴染みの関係が築かれている。ホームに隣接した場所には畑があり、利用者とスタッフが共に野菜を育て、ホームの食卓を飾っている。また、スタッフが利用者個々の暮らしぶりの情報を共有し、個々の役割を見出すなど、利用者の充実した生活を支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価において指摘されていた「注意を要する物品の取り扱い」については、保管場所が決められ施錠ができるように改善されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットのスタッフ全員に自己評価票が配布され、個々に記入したものを管理者が取りまとめて作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行政職員や地域住民、家族、利用者代表が参加している。会議ではホームの現状報告や行事の予定・報告、意見交換等が実施されている。市町村とは、電話で連絡を取り合ったり、直接窓口に行くなどして、連携を密にしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へ毎月1回、小遣いに係る収支報告と利用者のホームでの暮らしぶりを伝えている。意見箱を玄関に設置したり、面会時に家族と話す時間を作ったりしているが、現在まで苦情等が寄せられたことはない。しかし、運営者・管理者を含めスタッフ一同は、意見や要望を聞く心構えを整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	食材の買い出しに近くのスーパーや商店街を利用したり、町内の祭りへ参加するなどして地域住民と顔馴染みになり、日常的にあいさつを掛け合う関係が築かれ、利用者は地域の一員としての生活を送っている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の残存機能を十分に活用した暮らしを支援し、地域の中に溶け込んだ生活を目指すことを理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者を始めスタッフは、グループホームのあるべき姿について理解している。運営者と管理者は日々の支援において、スタッフへ言葉かけや支援についての「気づき」を促し、理念の実践を支えている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くにある商店街で食事の材料を買い出ししたり、散歩することで、周辺住民と顔馴染みになっている。また、地域の理容店・美容室等を利用することで、より親しい関係を築いている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、スタッフ全員が記入した自己評価票を取りまとめる形で実施されている。また、前回の外部評価の指摘事項である「注意を要する物品の取り扱い」については、保管場所が決められ施錠ができるように改善されていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には、行政職員や地域の民生委員の参加を得ている。グループホームの現状や利用者の事例報告を行い、相互理解に努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>電話にて市の担当者へ連絡したり、ホームから直接出向いたりして、運営や支援について相談・報告する機会を積極的に設けている。</p>		
4.理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度、各利用者の担当スタッフが利用者の健康等の状況を報告している。また、ホームでは利用者のお小遣い程度の金額を預かっており、その収支報告も併せて行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在のところ家族や地域からの苦情等はないが、家族が面会に来た場合等には積極的に会話をもち、要望や意見を聞く姿勢を整えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの配置はユニット毎にほぼ固定されている。利用者への配慮もあり、異動はほとんどない。異動があった場合は、新しいスタッフを利用者に紹介し、馴染みの関係が築けるよう努めている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤スタッフに限らず、研修に参加する環境を提供している。毎月開催される職員会議において、参加した研修の報告会を実施し、情報を共有している。また、運営者はスタッフと面談する機会を設け、スタッフ個々の状況を理解するよう努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北グループホーム連絡会に参加している。連絡会が主催する研修会にはスタッフも参加しており、他のグループホームと交流する機会を設けている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に際しての面談には、管理者を含めた2名で訪問し、その後ホーム全体で情報の共有を図っている。また、本人や家族からサービスを利用したいという希望があった場合は、そのニーズに対し迅速に対応することに努めている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホーム内は、和やかな雰囲気を感じることができた。食事作り等の際には、利用者からスタッフが教わる場面も見られ、良好な関係が築かれていた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>スタッフは利用者との会話の中から希望や意向の把握に努めている。また、朝と夕の申し送りやケアカンファレンス等によってスタッフ間の情報の共有に努めている。利用者の状態や健康等の変化があれば、その都度意向や要望を見出すよう努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各利用者の担当が中心となり、本人や家族との会話や普段の生活の中から希望や意見を見出し、ケアカンファレンスにおいて情報を共有した上、計画の作成にあたっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の変化等は、申し送りノートや利用者毎の記録から把握し、情報は常にスタッフ同士で共有するよう努めている。その上で、定期的な介護計画の見直しをチームで行い、本人や家族の希望する計画につなげている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>普段は家族が通院付き添いに行く場合でも、本人や家族の状況に応じて、管理者が通院の付き添いにあたる等、柔軟な対応が行われていた。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医を引き続き利用することもできる。基本的には、家族に通院の付き添いをお願いしているが、都合がつかなくなった場合は、管理者が通院支援にあたることが多い。また、かかりつけ医から紹介状を書いてもらい、協力医院の診療を受けられる体制も整えている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>これまでに、利用者の状況の変化によりホームでの生活が難しくなった事例があった。その際は家族等の要望もあり、スタッフとの話し合いや医師との連絡調整により、受け入れ体制を整えた(実際に対応するまでには至らなかった)。このような経験を踏まえ、ホームでは利用者の状況に応じて、家族・主治医と連携を密にしながら、ターミナルケアに関する方針を整えるよう努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ホームは個人情報保護の重要性を認識しており、個人情報の提供及び収集に関する同意を利用開始の際にもらっている。また、実際の支援の場面でも、スタッフは利用者に押し付けるような声かけをせず、本人を尊重して接していることが確認できた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな一日の流れはあるものの、それらのスケジュールを強要することはない。外出を望む利用者には外出を、縫い物やテレビ観賞をしたい利用者にはその支援を実施していた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの横にある畑でスタッフと利用者が育てた野菜や、利用者が採った山菜などが食卓を賑わせている。また、食事の下ごしらえや準備にも利用者が参加するなど、食事の楽しみにつながるような支援が行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回の入浴日となっているが、夏場には利用者の希望に応じてシャワー浴を随時実施している。また、就寝前には足浴も実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スタッフが、家族からの聞き取りや利用者の普段の生活を通じて得意なこと・できることを見出し、利用者個々が役割を持てるようにさりげなく配慮している。訪問時には、日めくりカレンダーをめくる方や玄関掃除を日課とする方などが見受けられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しには、希望する利用者と共に出かけている。歩行が困難な利用者には、ホームの周りや玄関先等で少しでも外気に触れられるように配慮している。また、天気の良い日には弁当を持って戸外で食事する機会も設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中、玄関には鍵をかけていない。利用者が一人で外出した場合は、すぐに止めるのではなく後ろから見守り、タイミングを計ってホームに戻るよう声かけをしている。また、開設当初より各居室には鍵を取り付けていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得ながら、避難訓練やAEDの操作法等を何日かに分けて実施することで、すべてのスタッフが受講できるように配慮している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者毎に食事量をスタッフが確認し、記録している。また、系列のショートステイ事業所に勤務する栄養士から、メニューのカロリー計算やアドバイスを得ている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下の天井が高く、天窓からも陽が差すなど、ホーム内は明るい。また、廊下には数人が腰掛けられるベンチが置かれ、利用者の会話場所となっている。リビングにはソファや畳敷きのスペースがあり、利用者が思い思いに過ごすことができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者自身が使っていた家具や日用品が持ち込まれていた。また、ある利用者の居室入り口には、入居前に自宅に掲げられていた三味線教室の看板が据付けられているなど、利用者個々の生活歴に配慮していることが確認できた。</p>		

は、重点項目。